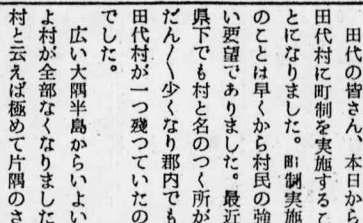


発行所 田代町公民館
電話 19 番
発行責任者 小川 兵一
編集責任者 久保 幸雄
鹿屋市共栄町
新生社印刷所

田代町長 湯ノ谷 米吉



田代町議会議長 鈴 十四郎



私達が多年の念願であつた町制が四月一日から施行することになりました事は誠に喜びに堪えません。願ひますれば明治二十二年の町村制公布により田代村として自來七十四年間

の星霜を経て、其の間歴代の村長を初め先輩議員各位のたゆまざる努力と村民の協力により幾多の問題を克服し今日の産業経済教育文化の発展をみるに至つたのであります。

近來我が国の急速なる発展に伴い最近の、社会情勢に即応するため此の際村を發展解消し町制を施行する事を二月十七日の議会で決議し私共議會としては凡ゆる角度から検討を重ねて参りましたが特別委員を設けて、種々調査を進め事務手續を今も終へまして、二月二十四日県庁へ申請致しましたところ県方課に於かれましては、早速現地調査を行なわれまして適當と認められました三月県議会で提案され県議會でも慎重審議の結果三月十六日の県議会で町制施行を適當と認められ、満場一致を以て、議決して戴きました事は、関係

御当局の御厚意に對し心から感謝申し上る次第であります。

愈々四月一日から田代町として發足する事

是は私共七民各位と共に生誕記念に感激で御大隅半島


た田代村が歴史の一頁町へと少年

よななもの

刷新して円満なる自治行政の伸長と共に産業經濟教育文化交通の飛躍的發展を促進し住民の強力なる振興の意欲と相対して恒久的福祉の増進と生活の安定向上を期したいと決意し昨年末町制實施の件を充分検討し村民會にも提案審議の結果万場一致可決致しまして県当局へ四月一日から町制施行

<p>感激の外ありません。</p> <p>本日いよ／＼明治三十二年今から七十四年前町村制施行以来の田代村を永久に</p>	<p>とすることについての基礎調査を完了した知事の査定を得て県議会上提案審議の結果私達の要望通り四月一日から田代村を田代町とすることが可決されたのであります。まことにうれしく</p> <p>次郎兼盛が父の譲りを</p>	<p>と称し大開郡不寝とされたこととすのが島津忠久公の頃建部時盛の二男</p> <p>せりて不寝院</p>
--	---	---

湯ノ谷	米	吉	八六名です
方を陳情請願致したのです	今田代村の	歴史をめぐ	
このことについては柴立県	つてみると	往古は大	
議に色々と御支援御協力を	根占根占佐	根占根占佐	
いたゞきことに感謝の外	多田代を合		
ありませんでした。			
県当局は直に我が村の実			



特 集 号

発行所 田代町公民館
電話 19 番
発行責任者 小川 兵一
編集責任者 久保 幸雄
鹿屋市共栄町
新 生 社 印 刷 所

人口七、四

六四三戸で

我が田代

閉ち新しく

生し本日が

つた次第で

実施始めの

お別れと共

を挙げ町村

村長の慰霊

感激に満ち

つた次第で

田代祝町制

とになりまして
 千五百余人の町
 に誠に喜びに堪
 れる事の出来な
 さいます
 の中に、ただ一
 て、残されてい
 る今町として、
 を、飾り村から
 が青年になつた
 であり新しく生
 したに
 振興意欲を高め円滑なる、
 自治行政の伸展は勿論産業業
 経済文化特に教育の発展と
 町民の繁栄と福祉の増進に
 努力しなければなりません。
 然しながら、地方自治体
 の財政の現状は、窮迫の傾
 向にあり此の財政を、克服
 し町民の総意を反映せしめ
 今後の町
 政に当り
 しては町民
 の心氣を新



戸長を官選
として統制
されたので
す。それか
ら明治二十
二年町村制
実施により
田代村とな
り戸長の官
選を民選に
改められ村
長が置かれ

明治十七
年には麓川
原の村名を
廃し大字麓
川原として
田代郷を田
代村と改め

茲に田代町が經
ら町制実施とな
りあります。町制
に日当り村との
町に制始めの式
制実施以來歴代
祭も行い新しい
た式典を取り行
います。

村は現在戸數一
視もあり花瀬川に遊覧御手
植の松もあ
ります。



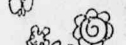
我がふるさとの
いやさかを
希う

明るい民主政治の真の姿を
 具顯せしめるためには前途
 に幾多の障礙も予想しなけ
 ればなりません。

今日、の歴史の記念すべき
 日を契機として地方自治確
 立と伸展を期するにため研
 究に努力を重ねる議會運営を通
 じて町政の飛躍的發展に寄
 与したい所存であります。

何卒町民各位の絶大なる
 御協力を切望致します。

茲に町制施行に当り所感の
 一端を申述べまして御挨拶
 と致します。



我がふるさとの
いやさかを
希う

七代 四一、五七、六日高喜一
 八代 一〇、二〇、二岩下清宗
 九代 三、四三、上田政吉

いづれの村長も長い年月
 村長の職にあつて田代村振

六代	五代	四代	三代	二代	初代	
四、一七	三、一七	三、一三	六、一三	三、四、六	三、四、	明治三、
小牧昌平	谷元弥一	小牧壮一	小牧昌平	日高常介	前田勇七	

でしょう。
之をきつかけに、住民の意識が高まり、郷土の土飛躍への転機となるならげ、町民の幸之に過ぎるものはないと思います。
陣痛の苦しみと云いますが、田代町の誕生も決して安産ではなかつたようでした。之が産婆役してもらつた村当局、議会の御骨折に対して、改めて深甚の謝意を表する次第です。
省れば此の前の地方選選の折、猪鹿倉議員が投ぜられた公約の波紋は意外にもきく、町制を望む声は急に高まつたやうでした。
一部にはレッテルだけで、中味が變るわけでも

田代町公民館長
小川 兵 一

業經濟交通教育文化等の総合的發展を具現し郷土建設の意欲を高め町民の福祉の向上を計り内外共に信用する理想郷の建設を期した」と深く決意するものであります。それには七千五百の

興に最善の努力を致され、
代村長の残された偉大な
御功績と御恩恵に浴して
ますことを思う時全く報
感謝と共に散々、の情禁
得ないのがあります。
本日田代村が永久に消
去り田代町に発展出発に
り私は町当局とし又町民
して感激を新しくし責任
重大なるを痛感し田代町
治行政の伸展と共に各種

す影響は馬鹿にならない
お互の役職名にしても、
入ある呼び名をつけて仕
を任せると、あの人がと
われたような人でも、結
呼び名にふさわしい力を
揮って職責を全うするよ
になるものである。

村と云う田舎臭い語組
呼び名では、住民をいつ
も田舎臭い生活の中に沈
展性がなく。田舎臭いと
うことは文化程度が低い
云うことの別名である。

此処から村に新風を吹
込み、住民の文化意識を
め、一大奮起を促し、郷
の飛躍的發展の礎を築く
にも、英所を下して聞

なし、村は村らしく村で良いではないかとの反対意見もありましたが、私は最初から叶うのなら田代も此処にあたりに、思い切つて町制に踏み入るべきだと云う考え方につて、極力与論を支持し來ました。

その理由は
第一「名は居を写す」

総 申しまして御挨拶
 設 捗申し上げます
 の (四月一日)
 の
 の
 ☆ × ☆

歴 町民全部が物心
る 両面から一致団
い 結して総親和総
努力の外ないと
思います
町民の皆さん
え 新ししい田代町民
として新ししい感
と 覚でスタートさ
の れ最大の御協力
目 方を町制施行の
座 日に当り御願ひ

て、対外的に田代は田
責と云う概念をなくする
が特策だと思いました
田代に初めて赴任さ
方々に、着任早々田代
象を聴くと、どの方も
合せたように、田代は
だに広い大隅地区に、
た一つしかない村にか
余程不便な片田舎だろ
そんな片田舎には人間
いてしまうから行きま
くやつて来た。 来
とと案外良い所で、よ
を赴任したと思うとの
です。ですから一日も
町を名乗らなければ、
に交流面で計り知れない
制すると云うことでした。

た
と
に
踏
み
切
る
べ
き
だ
と
思
へ
る
で
し
た
。

[illegible]

第三の理由は、他郷
つて奮闘しておられる
土出身の、大いなる未
持った若い世代に、楯
に肩身の狭い思いをさ
いと云うこと。我々
なんでも性のような
でも、感受性の強い若
代とは、それは日吉君



ふるさとのいやさ



かを希つて



ふるさとのいやさかを希つて
植えられた記念造林地（場所 平山）

田代町の概況

本町は肝属郡（大隅半島）の南中央部に位置し東は内之浦町西は根占町南は佐多町北は大根占町に
境しこれを地理的に見ると東経130度48分～130度57分北緯31度7分～31度31分の間にある

往古は大、小、根占、佐多、田代を合せてねじめ院と称しねじめ氏17代迄領治して居り以後は島津
氏の直轄地となり、慶長四年六月川上左京亮四ヶ村地頭代官となり田代郷と呼ぶ様になる。
そして麓は麓村、川原は川原村と呼んでいた。明治17年10月麓、川原の村名を廃して大字とし田代郷
を村と改め、明治22年町村制施行により田代村となり昭和36年3月31日村名を廃し4月1日より田代町
となる。なお大正3年の桜島大爆発当時桜島の一部、部落民が内之牧中尾に入植し又終戦当時昭和21
年満洲の盤山開拓団が本村に引揚げ入植し現在盤山部落作り開拓農協を組織している。
昭和24年4月には隣町根占町の猪鹿会部落が編入し境界の変更をおこなっている。

歴代村長	初	前田 勇吉	明治22年4月～	23年3月	6	小牧 昌平	明治33年12月～	41年4月
	2	日高 常助	23年4月～	25年12月	7	日高 善一	41年5月～昭和10年11月	
	3	小牧 昌平	26年1月～	29年1月	8	岩下 清宗	昭和10年12月～21年11月	
	4	小牧 壮一	30年1月～	32年3月	9	上田 政吉	22年4月～34年4月	
	5	谷元 弥一	32年4月～	33年11月	10	湯ノ谷 米吉	34年5月～現在	

歴代村長助役議長	初	日高 常助	明治22年4月～	23年3月	8	岩下 清宗	大正8年5月～昭和10年11月	
	2	岩下 兵助	23年4月～	25年12月	9	橋口 薫	昭和10年12月～14年12月	
	3	岩下 兵助	26年1月～	29年1月	10	石井 清彦	15年1月～22年3月	
	4	前田 勇七	30年1月～	32年3月	11	湯ノ谷 米吉	22年4月～28年1月	
	5	井手 竜幸輔	32年4月～	33年11月	12	門前 信好	28年2月～34年4月	
	6	小牧 兵吉	33年12月～	41年4月	13	君付 忠男	34年6月～現在	
	7	君付 栄右エ門	41年5月～大正8年1月					

歴代議長	初	柴立 芳文	昭和22年5月～	26年3月	2	鈴 十四郎	昭和26年4月～現在	
------	---	-------	----------	-------	---	-------	------------	--

地勢及び面積 町の東南北は国見山脈を眺望し行政区域は略円形をなし東西約14.5軒南北約13軒 総面積77.55平方軒

人口戸数	国勢調査 (30年10月1日)	7,603人	内男 3,766人	女 3,837人	1580戸
	〃 (35年10月1日)	7,486人	内男 3,688人	女 3,798人	1641戸

耕地面積 814町内 (田 323町、畑 463町、樹園地 28町)

林野面積 国有林 3,621町、村有林 478町 民有林 2,163町

農業 農家人口 6,433人 (男 3,145人 女 3,288人) 農家戸数 1,212戸
経営耕地別農家数 3反未満 (232戸) 3反～5反 (222戸) 5反～1町 (524戸) 1町～1.5町 (180戸) 1.5町～2町 (48戸) 2町以上 (5戸)

畜産 家畜飼養数、役肉用牛 (903頭) 馬 (69頭) 豚 1,255頭 めん羊 (114頭)
山羊 71頭 兎 373頭 にわとり (8,251羽) 乳牛 6頭

教育	学 校 名	学級数	職員数	児童生徒数			社 会 教 育
				男	女	計	
	田代小学校	20	24	494	451	945	
	同上 花瀬分校	3	3	47	41	88	
	大原小学校	11	13	205	182	387	
	田代中学校	11	17	226	246	472	
	大原中学校	5	7	83	80	163	
	田代高等学校	8	14	157	96	253	婦人学級2学級 (96人) 青年学級4学級 (137人) 成人学級2学級 (60人)

田代町の発足に思う
田代中学校長 川 辺 義 弘

四月一日から我が田代村なるが故に其の存在を無視が新しく田代町として生れ
変ることになった。今まで
僅かの数の村として取残さ
れた郷土が急に明るくなつ
た気がする。まことに
めでたいことである。

田代は之まで村は小さく
とも其の筋には県下でも充
実した町村の一つとしてそ
の名を上げていたのである
が現状を知らない人には村

さて町になったが之まで
の村と実質的にどう変わるか
、何も得るものがなければ
やっぱし村で差支えないで
はないかと考える者もある
がそれは自分の郷土を離
れたことのない、時代のす
う勢を知らない、他所と全
く交渉を持たない人の見解
であろう。

村と言えは其の村を知ら
ない他所の人、特に都市の
人は葉屋根が田圃や山腹の
木立の間に散見するいわゆ
る農山村の片田舎、僻地と
思ふ。特に対外的に交渉を
する人、他市町村の人に

い旅館もない、商店街や病
院も殆どないような田舎と
しか受け取れない。又村長
さんと言えは明治大正時代
の白髪で温厚な老人が思い
出され、我等の町長と言え
ば如何にも元氣満ちたした
活動的な紳士の姿が目につ
ぶ。

このように村を町に改め
ることにより今すぐ実質的
に得るものは少くとも町の
口は果して幾人であつたら
うか、又産業、経済、教育
を新しに今後ますます平和
な明るい理想郷田代町を育
成することに努めなければ

文化施設等のことと比較す
るならば当時の村の姿とは
遠の昔に別れていた筈であ
る。更に初めて村制をしい
た時の役場の職員は村長さ
ん外何人であつたらうか？
今の役場の組織機構職員数
と比較して雲泥の差のある
ことを思えば感一入である
このように時代の流れに
沿つていよいよ田代町とし
て発足することになったが
之を契機にお互町民は覚悟
を新しに今後ますます平和
な明るい理想郷田代町を育
成することに努めなければ

ならぬ。産業、経済、交
通、文化あらゆる面に町と
して恥しくない体裁を整え
内容的にも力のある立派な
町となるにはまだ程遠いも
のがあるのでなくはなからう
か。教育の面では科学文化
の目まぐるしく進展するこ
の勢に一方思想は混トント
し其の中で国家社会の要求
する身心共に健康な人物を
養成することに責任者の
一人として特に其の感を深
くするものである。

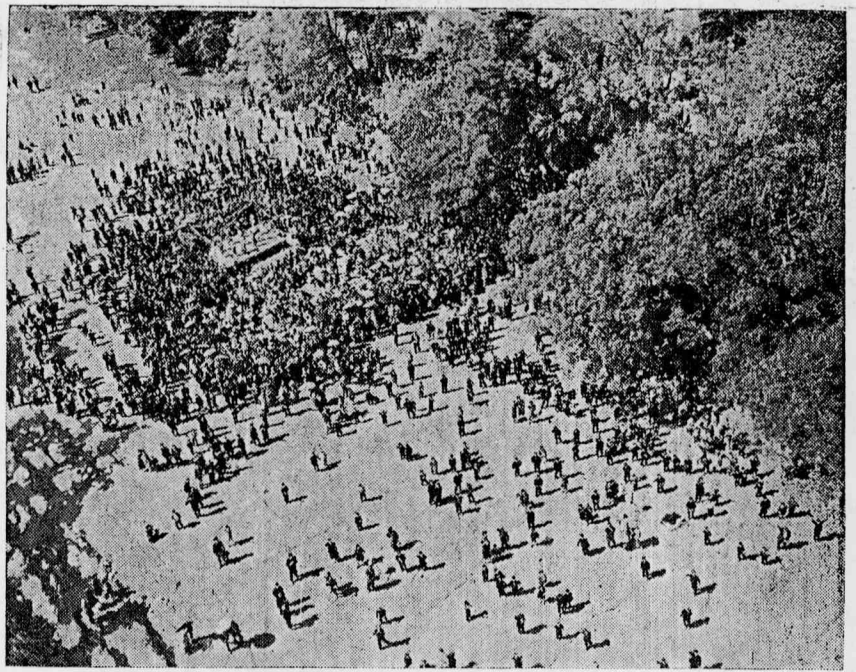
田代中学校は設立されて
既に満十四年、今年で一六
二名の卒業生を出し其の
中高校進学が約六〇％で九
四〇名、其の中全日制高校
へ三三二名(男二三二、女
一〇〇)、定時制の田代高校
へ六〇八名(男二六八女三
四〇)の多数に上り其の中
大学へ進学した者が三十三
名(内男女六名本年度含まず
)という状態で残り約四〇
％の六八〇名が就職並家事
手伝となり最近では就職が
年々多くなる傾向である。
このような本町の人物を
養成する田代中学校が最大
の問題として悩み又障害と
感じているのは学校の位置
と運動場の問題である。こ
の事は之まで度々町当局や
教育委員会に御願している
のであるが、町制実施発足
に当り其の将来の発展を期
し子供達の幸福を願ひ、茲
に町当局の深き御理解と町
民各位の御協力によつて一
日も早く田代中学校の理想
境が建設されることを夢み
ている次第である。

町制に
ちなんて
長谷 徳永貞蔵

花咲き小鳥の歌う平和な
我が村にも春のおとづれと共
にいよいよチヨウ(町)が
やつて来ました。
長年云いながら村をすて
田代町の第一歩、恰度それ
は長い冬を、寒い北風にさ
らされながら、待ちに待つ
たかいあつて今や春の日を
浴びてすくすくと伸びんと
する草木のようだ。
さあ我々も田代町発展へ
決意あらたにしてチヨウチ
ヨウ(町長)の羽根の下で
花になり、実になりして、
たゆまず所得倍増に努力い
たしましょう。

伸 昭和三十六年 田代町制おめでとら 四月一日 新

田代町森林組合	組合長	柴立 芳文	外職員	一同
	外職員	一同		
田代町郵便局	局長	篠原 亮	外職員	一同
	外職員	一同		
田代町公民館	館長	小川 兵	外職員	一同
	外職員	一同		
田代町議会	議長	鈴木 十四郎	外職員	一同
	副議長	野 耕	外職員	一同
町役場	町長	湯ノ谷 米吉	外職員	一同
	助役	君付 忠男	外職員	一同
田代町役場	収入役	西川 市蔵	外職員	一同
	外職員	一同		
田代町農業協同組合	組合長	中原 順	外職員	一同
	外職員	一同		
田代町教育委員会	委員長	篠原 亮	外職員	一同
	委員	小牧 辰巳	外職員	一同
田代町農業共済組合	組合長	門前 信好	外職員	一同
	外職員	一同		
食糧事務所田代出張所	所長	前田 昌之	外職員	一同
	外職員	一同		



鹿屋自衛隊機上より、祝賀会会場を望む
自衛隊機三機による祝賀飛行に約三千人の観客 青空に注目

(迷句三題)
町いなるつてん
造林伐れはひとつし
谷川原ん 炭焼小屋も
町の内
名面替 ざせき
総会 登記所かい

町制施行促進のため

議会に特別委員会設置

昭和三十五年十二月議会の
議員協議会に於て田代町制
を速かに促進するために特
別委員会が組織せられ左記
の通り委員が選任された。
この委員会は村執行部並議
会を中心にして町制実施に
関する一般のことを調査検
討して資料を蒐集書類を作
成し県に提出して県議会の
議決を経て今回の町制実施
を全面的に推進したもの。

町制施行促進特別委員会
委員長 押川熊次郎
副委員長 猪鹿倉義則
委員 (総務副委員長) 鈴木十四郎
(議会副委員長) 原沢美代次
(経済委員長) 荒木秋田
(文教厚生委員長) 南園繁
(建設委員長) 繁

町制施行を慶ぶ

根占地区信用組合

田代支所長 清藤 光雄

村民の誰れしもが何時かは信用事業にたずさるる私共
町制実施を思つてた事が
此の四月一日を期して遂に
実現致しました。本日に御
目出度い限りであります。
明治廿参年地方自治法施行
以来永い間営々として今日
の村を築いて来られし歴代
の為政者及村民に本日佳
日を迎へるに当り衷心より
敬意と感謝の念を捧げるも
のであります。今後は町民
としての襟度と大いなる希
望の下にそれぞれの分野に
於て懸命の努力と最善を尽
して町発展のために頑張ら
ねばならないと考える次第
であります。田代に庶民金
融機関として生れました信
用組合も皆様の絶大なる御
協力御支援に依りまして年
々発展途上に有ります事も
此処に併せて深く感謝申上
ます此の度 行に当り

汗の結晶であるお金を預
り致して居ります。どうぞ
今後共、貯金は一先づ地元
の金融機関へお預け下さい
。皆さまが、お預け下さい
ました。大切なお金は、資
金を必要とする人々の血や
肉となり我田代町の産業経
済発展の為に直接間接に貢
献されている訳であります
。近來田舎の隅々迄投資信
託(間接投資という)など
も盛んになって参りました
が、之は国の段階から見ま
すれば結構な事でありませ
す、好ましくないと考え
ます、と申しますのは、之
等投資信託は県外(大都市
集中)に全部お金は持つて
行かれて地元には何も残さ
ない。どうしても地場産業
振興の為には、地元金融機
関を活用して頂く事が肝
要である事を御留意願ひ度
いと思ひます。
昔から貯蓄は美德の一に数
えられて来ましたが今日に
於ても、やはり美德の一つ
であらうかと思ひます。池
田所得増進内閣においても
、国民各人が所得の三〇%
は貯蓄を必要とする事を説
いて居ります。
限られた紙面の関係で具体
的に話出来ないので遺憾
に思ひますが、いづれ又機
会があらうかと存じます。
甚だ粗辞であります之を
以てお祝の言葉にかえます
。最後に信用組合とは皆様
が仕事着、ハダシのまゝ飛
込んで預金なり融資なり気
軽に御相談願ひる組合であ
るという事をお知り下さつ
て、よりよくお育て下さい
ます様此処に御願申上ます



感心な少年の便りと金一封

上原出身の前田君

次に掲載したお便りは、
上原部落の前田君の子
二男 前田博美君(十六
才)より寄せられたもので
町制を祝して、お便りに金
一封を添えて送られたもの
であります。
やゝもすれば、自分の生
活に追われ、人の為とか、
村の為の事など忘れられが
ちな今の世の中に、前田君
は、屋は働かばは高校に通
う、寸暇もない苦学の中よ
り、生れ故郷が町になる事
を知り、自分の事のように
よろこび、次のお便りと、
お祝いの御金を送つてくれ
たもので、見るもの聞くと
に、心たのしいものを感
じさせてくれます。
故郷に残る父母兄弟はく
れどもよろしくお願ひ
申し上げます。
前田 博美
福岡市鴻洲町八四番地
西園商店内



祝賀会余興に本職顔まげの演技を見せる盤山
女子青年の皆さん